

道徳学習指導案

平成30年11月16日（金）

第3学年

授業改善の視点

「夢見る夢子」だった筆者が、なぜ脚本家になれたかをグループで話し合わせたことは、道徳的価値についての理解を深め、自分自身のよさを伸ばしていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる上で有効であったか。

- 1 主題名 「個性を伸ばして生きる」（中心内容項目：A 向上心、個性の伸長）
（関連内容項目：A 希望と勇気、克己と強い意志）

資料 「脚本家が出来上がるまで。」
（出典：「中学生の道徳3 自分をのばす」廣済堂あかつき）

2 主題設定の理由

（1）学びのつながり

本主題は、学習指導要領「特別の教科 道徳」の内容「A 主として自分自身に関すること」の「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。」に基づいたものである。

小学校 高学年	個性の伸長	自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
中学校	向上心、 個性の伸長	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

小学校の高学年では、自分が気づいた長所に目を向けて、それを維持し伸ばそうとする態度を育てるとともに、自分の短所をしっかりと見極め、それを課題として改善し、自分自身を伸ばしていくように指導している。

中学校では、小学校における指導内容を更に発展させ、自己のよさや個性に気付かせるとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求するよう指導することが重要な課題となる。

ここでは、資料「脚本家が出来上がるまで。」を活用し、シナリオライターとなった筆者の生き方、考え方をもとに、自分自身の固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし、より輝かせることや、自分自身が納得できる深い喜びを伴った意味ある人生を追求することの大切さを考えさせたい。

（2）ねらいとする道徳的価値について

中学生になると、だんだんと将来のことを考えはじめ、この先の自分の姿や将来像を思い描くようになる。これまでの自分、そして現在の自分を見つめ直し、将来こう在りたいと自分なりの在り方や生き方を考えることは、自己の向上を願って充実した生き方をしていく上で重要なことである。「充実した生き方」は、他者との関わりの中で自分らしさを発揮している生き方であり、自分自身が納得できる深い喜びを伴った意味ある人生を生きることである。そのため、自己について深く省み、価値ある自己の実現に向けて努力していくことや、長所・短所なども自分の特徴の一側面として広い視野から多面的・多角的に考え、自己を肯定的に捉えながら、自分自身のよさを伸ばしていくことが重要である。

例えば、自分にはよさや個性はなく、自分自身で嫌だと思っけていても、見方を変えることでよさになり得ることや、磨きをかけることによって輝く個性になり得たりする。さらに、その

ことに気づくことで、自己有用感が高まったり自分に自信がもてたりする。一方で、自分なりの在り方や生き方を追求する過程では、他人との比較や周りの意見などもあり、本当にそのまま自分の意志を貫いてよいのか、と不安になることもある。しかし、その不安や恐れに躊躇する気持ちに屈せずに、自分自身の弱さに打ち勝ち、自分が正しい、目指したいと思うことをやり遂げようとする積極的な気力は、向上心、個性の伸長には不可欠である。

それらを踏まえて、人間としてよりよく生きようとする道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきたい。

(3) 生徒の実態 (略)

(アンケート結果)

あなたは自分の個性に気付いていますか。
(はい○人、わからない○人、無回答欠席○人)

○『「個性」とはどのようなものですか?』(※自由記述の回答を類型)

- ・自分にしかない(自分だけが持っている)もの ○人
- ・一人一人が持っている性格 12人
- ・特徴 ○人 ・優劣 ○人 ・第一印象 ○人 ・その他分類不能 ○人

○『思いつく「個性」には、どんなものがありますか?』(※自由記述の回答を類型)

- ・性格に関すること
明るい 暗い 元気 うるさい 静か 面白い 真面目 優しい
厳しい ポジティブ ネガティブ 人見知り 陽気 暖かい 陰気
冷たい 敏感 鈍感 人に流されない 勤勉 几帳面 頑張り屋
頑固 お調子者 おしゃべり 涙もろい だまされやすい
知らない人と仲良くできる 天然 自己中心 誠実
- ・見た目に関すること
目や髪や肌の色 手や足や体の大きさ、形 服装 持ち物 歩き方
- ・その他の特徴に関すること
運動神経 学力 声が大きいの 足が速い 責任感がある 無責任
マイペース 器用 不器用 話し上手 話し下手 字の大きさや書き方
ものの考え方 口調

(4) 資料について

筆者は、高校二年生の時に友達の代筆をした会話形式の感想文が高い評価をされたことをきっかけに脚本家を目指すようになる。“夢見る夢子”と母に呆れられていた筆者が、「脚本家になる」という気持ちをずっともち続け、家族の反対にあいながらも、何度も脚本家になるための行動を起こし、最終的に脚本家となる、という内容である。

本資料では、「脚本家になる」という気持ちをずっともち続け、高校・大学・社会人・病気など、様々な転機でも自分自身の意志を貫いた筆者と、その周りで筆者のことを案じる家族の思いとのぶつかりあいがある。また、大学進学、就職、病気と、筆者の人生のなかで訪れる転機において、達成できないかもしれないけれども、自分の気持ちを貫く行動を筆者はとっている。反面、そうやって自分の気持ちを貫くことで、結果として生活に不自由したり、夢がかなわなかったりすることも十分考えられる。そういった葛藤の中で、「人とは違う文章が書ける」という個性を、北海道の富良野塾で学んだり、健康を取り戻した後に脚本家の倉本聰先生のもとへ個人的に通ったりすることで磨きをかけ、本物の輝く個性に磨き上げた筆者の強い思い

や、自分で選んだ道を進んだ充実感から、個性を伸ばし向上する心をもつことの価値に気づかせていきたい。自分の気持ちを貫いた筆者の姿勢について、自分自身のよさを伸ばし、よりよく生きるということについて多面的・多角的に考えることができる資料と考える。

3 指導方針

<事前指導>

- 資料が長いので、資料は事前に読ませて、話のあらすじを理解させておく。

<導入>

- 自分ごととして道徳的価値を捉えることができるように、個性についてのクラスのアンケート結果を提示することから学習テーマにつなげ、本時の主題に関わる問題意識をもたせる。

<展開>

- 話の内容をカードで提示するなどして、短時間で内容確認ができるようにする。
- 資料の一部を範読し、筆者が大切にしたい個性とは何かを考えるべきポイントが捉えられるようにする。
- 小グループでの話し合いの場や全体での意見交流の場を設定し、多面的・多角的に考えさせることによって道徳的価値の理解や他者への理解を深められるようにする。
- 中心発問について考え話し合う場面では、個人で考える時間を確保し、自分の考えをもって議論に参加できるようにする。

<終末>

- 自分自身を振り返って考えさせるときには、議論することで自分自身の見方や考え方が変わったり深まったりしたかどうかを振り返らせ、今までの自分とこれからの生き方について考え、ワークシートにまとめさせる。

4 校内研修とのかかわり

本校の校内研修主題・副主題は『進んで他者とかかわり、よりよい生き方を追求する生徒の育成ー「考え、議論する道徳」の指導の充実を目指してー』である。

本授業を通して、自分自身のよさを伸ばし、他者との関わりの中で自分らしさを発揮していくことで進んで他者とかかわり、よりよい生き方を追求していくことの大切さを理解させられると考える。

また、話し合いや意見交流の場で他者理解を深めさせることで、道徳的価値の理解を深め、多面的・多角的な見方や考え方へと発展させることができると考える。

5 本時の学習

- (1) ねらい 自分の個性を磨き、よりよく生きようとする筆者の生き方に触れることで、自分自身のよさに気づき、そのよさを伸ばそうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

- (2) 準備 副読本、ホワイトボード、マーカーペン（2色）、ワークシート、掲示資料

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問（○基本発問、◎中心発問）と予想される生徒の反応（・） （期待される反応は_____）	時間	支援及び留意点

導入	<p>1. 自分たちの実態を知り、問題意識をもつ。</p>	<p>○自分の個性に気づいていますか。 ○個性とはどのようなものですか。</p>	5分	<p>・個性に対する実態を把握し、生徒の問題意識や学習の必要感を高める。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><学習テーマ>個性を伸ばすとはどういうことか。</p> </div>				
展開	<p>2. あらすじを確かめてから筆者の個性に触れている部分の資料の範読を聞く。</p>		5分	<p>・資料は事前に読ませておく。 ・内容の確認がしやすいように、カード等を用いて説明する。 ・T1が範読し、T2は生徒の様子を観察する。</p>
	<p>3. 筆者の個性について考える。</p> <p>〔*道徳的価値を理解する。〕</p>	<p>○筆者の個性には、どんなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章が書ける。 ・演劇に興味がある。 ・意志が強い。 ・自分を貫く。 ・粘り強い。 ・一途。 ・頑固。 	10分	<p>・筆者の個性は、(生徒が考える個性とは違うが、) 他人と違う固有の持ち味であることを共通理解させる。</p>
	<p>4. 筆者が自分の個性に気付いて、向上心を持ち続けたて磨いたことで、人生が変わったことを考える。 (ワークシートに書く⇒小グループで話し合う⇒発表)</p> <p>〔*多面的・多角的に考え、他者と議論する。〕</p> <p>5. 個性を伸ばすことは、短所を長所に変える発想も重要であることを考える。</p> <p>〔*道徳的価値について、さらに考えを深める。〕</p>	<p>○「夢見る夢子」だった筆者が、本当の脚本家になれたのは、なぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性を磨いたから。 ・好きなものを続けたから。 ・頑張ったから。 ・文章を書く才能があったから。 ・あきらめなかったから。 ・自分を信じていたから。 ・文章を書く以外にやりたいことが見つからなかったから。 ・自信があったから。 ・自分の特性に気付いていたから。 <p>◎「個性」とは長所だけだろうか？短所は個性として伸ばすにはどうすれば良いだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の短所を違う視点から見つめ直す。 ・友達から自分の短所を指摘してもらい、どうすれば長所になるか考える。 ・多くの人の意見を参考にし 	20分	<p>・多様な意見を認め、自分自身の向上を目指し、個性を伸ばしていったことが夢の実現につながる、という価値理解につなげさせる。</p> <p>・自分の考えをもたせるために、個人で考える時間を設定し、ワークシートに書かせる。</p> <p>・グループで考えを出し合う際、なぜそう考えたのかも聞き合い、考えを深めさせる。</p> <p>・自分だけの見方や考え方に固執せず、多面的・多角的に意見をとらえさせるようにする。</p> <p>・ホワイトボードを活用し、各グループから多様</p>

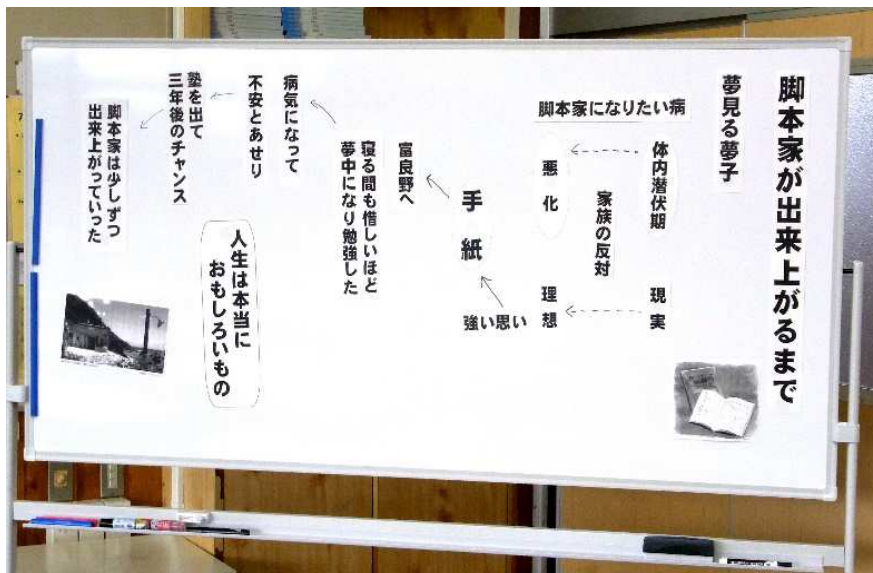
		て、自分の個性について深く考える。 (例) ・わがまま →意志が強い ・作業が遅い→長時間作業ができる。 ・おとなしい→人の話を良く聞ける。		な意見を出させる。 ・短所=悪い所ではなく、発想の転換、視点を変えることで長所=個性となることに気付かせる 補助発問をT1、T2が行う。
終末	6. 本時の学習を振り返る。 〔*道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。〕	○今日の授業で考えてきたことや、これまでの自分の生活を振り返ってみて感じたり考えたりしたことを書きましょう。 ○他の人の発表を聞いて気づいたり、考えたりしたことを書きましょう。	10分	・今までの自己を振り返るとともに、今日学んだことを自分のこれからは生かすように、自分の気づきや考えを整理させる。 ・自分と対話する時間を確保する。 ・何人かの生徒に発表させる。 ・自分と他の人の考えを比べて気づいたことを記入させる。

(4) 評価の視点

- 「自分の個性を磨き、よりよく生きようとする事」について、筆者の生き方や個性について考える意見交流を通して、向上心、個性の伸長について多面的・多角的な見方ができていたか。
- 「自分の個性を磨き、よりよく生きようとする事」について、筆者の生き方を通して、向上心、個性の伸長についての理解を自分との関わりで深めていたか。

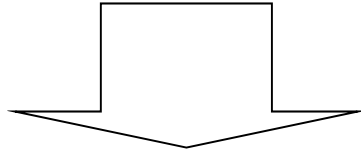
6 板書計画

- ・あらすじの確認



「脚本家が出来るまで。」

「夢見る夢子」だった筆者が、本当に脚本家になれたのは、なぜだろうか。



今日の道德の時間を振り返って、考えたこと、感じたことを書こう。

(ほかの人の発表を聞いて)

3年()組()番 名前()